

八戸工業大学における学修成果の可視化 —20の修得因子と教育の質保証を支えるPDCAサイクル—

八戸工業大学
小玉成人

1 はじめに

八戸工業大学は、平成26年にAPのテーマII（学修成果の可視化）に採択され、平成28年度には、テーマIIとテーマI、III、IV、Vとの接続課題を検討し、以下に示す5つの取り組みを掲げて事業を展開することとした。

- 取組①：高大接続教育の推進
- 取組②：自主的学修活動の推進
- 取組③：学びの過程における達成度評価システムの確立
- 取組④：キャリア教育の徹底による良き職業人の育成
- 取組⑤：高大接続改革における質保証の推進

図1に学修の過程と事業目的（取組）との関係を示す。

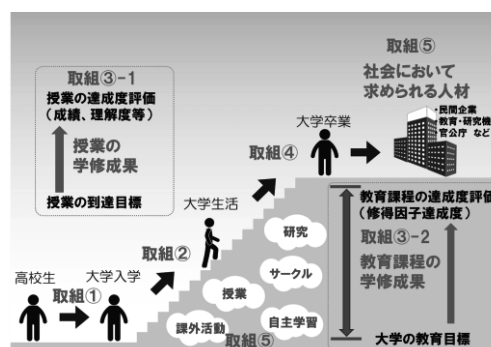


図1 学修の過程と事業目的（取組）

入学してから卒業するまでの教育課程は授業によって編成されるが、学生は正課授業以外に課外活動などで教員の助言を受ける正課外教育を経験する。また、教室の内外での教育活動に触発され、自ら学修活動へ取り組んでいる。これを踏まえて、本学では、「学修成果」を「授業に関わる学修成果」および「教育課程に関わる学修成果」の2つの視点で可視化することを目指している。

2 学修成果の可視化：修得因子の定義と活用

学修成果を可視化する主な取り組みとして、学生が具体的に身に付けるべき知識・能力・態度を20個の修得因子として本学独自に定義した。この修得因子は本学教育目標の属性であり、文部科学省の「学士力」、「生きる力」、経済産業省の「社会人基礎力」、JABEE認定基準を包含するよう構成されている。そして、この修得因子を指標として、学生の達成度評価や教育課程の可視化（カリキュラム・マップ、ツリー等）のための手法を構築した。

3 教育の質保証を支える二重のPDCAサイクル

教育の質保証を実現するため、課外活動等も含めた学生の学修活動を可視化し内省を促すためのLP I（ラーニング・ポートフォリオ I）、およびそれと対をなす教員の教育活動を可視化するためのティーチング・ポートフォリオ（TP）の二重のPDCAサイクルを作成・運用した（図2）。

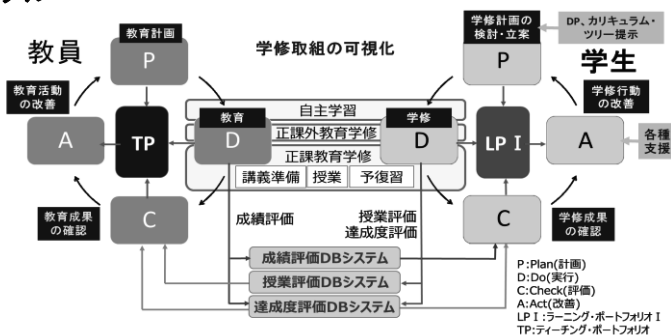


図2 教育の質保証を支える二重のPDCAサイクル

4 おわりに

本取り組みでは、教育の質保証を行い、DPを実現するため、学修成果を定義し、学修成果達成度評価指標として20の修得因子を導入した。また、LP I、TPを活用して、学びの記録、教育の記録を通じた二重の教育改善ループを構築した。さらに、卒業時に本学が質保証できる修得因子達成度のレベルを全学的に定め、ディプロマサプリメントを発行した。今後は、教育改善・学修改善PDCAサイクルの更なる実質化や達成度評価値の学生還元の実質化、複数の情報を組み合わせた多元的な学修成果・教育成果の把握と可視化、質保証の推進と情報公表を行う予定である。